

御船町マップ



A 弘法山
明治38年頃、辻行の二人の発願者の呼びかけにより、辻行の山に準四国八十八ヶ所の弘法様を祀ることになった。
素焼きの弘法様八十八体と大弘法様、鎧弘法様記念碑を篤志家から奉獻され安置されている。



B 山田川緑地・桜並木
山田川緑地公園は、平成10年山田川左岸1.5kmに治水を兼ねた河川敷公園として整備された。芝生緑地の中には遊歩道、ビオトープ、多目的広場、駐車場等が設けられている。平成11年にこの緑地公園を区民の憩いの場として活用するため、町民有志がオーナーとなり、205本の桜を植樹し、これを機に愛護会を結成し管理している。



C 六部堂
碑には「奉納大乗妙と六十六部日本巡國」とある。地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の六道を輪廻するのが人の実相で、この六道の迷いから人を救ってくれるのが六地蔵といわれている。昭和54年坂下鉢山主山本盛衛氏の発願で墓の全面空地を竹や焉



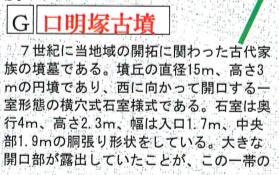
D 淨嚴寺
淨嚴寺は正報山功德院淨嚴寺といい、惠吟和尚によって天文元年(1532年)に開山した浄土宗の寺である。本尊は阿彌陀如来、脇座は勢至菩薩と觀音菩薩である。創建された当時の建物は、茅葺であったが火災等により何度も改築を重ね、現在の本堂は明治末期から大正の初めに建てられたものである。その後、十三重の塔なども完成し、多くの檀家を擁する寺となっている。



E 八柱神社
天照大神の8人の御子を祭神とし八柱神社として祀られている。創立年代や由緒などは残されていないが、明常に始まり、御船川沿いに定住した先人達が集落が大きくなるにつれて、この地に鎮守の神として神社を創建したとい伝えられている。木札による実証として、鳥居が宝曆2年(1752年)を始めとして7度改築されている。



F シデコブシ
シデコブシは豊田市内では御船町のほか琴平町などに分布する。世界的にも東海地方に固有な植物である。国では準絶滅危惧種、愛知県では絶滅危惧二類に指定され、保護が求められている。落葉広葉樹で高さは約10m程度、花は5月頃、白からピンク色まで樹木により異なる。花弁が神事に使う手(手袋)に似ていることからこの名で呼ばれている。



G 口明塚古墳

7世紀に当地域の開拓に関わった古代家族の墳墓である。墳丘の直径15m、高さ3mの円墳であり、西に向かって開口する一室形態の横穴式石室様式である。石室は奥行4m、高さ2.3m、幅は人口1.7m、中央部1.9mの胴張り形状をしている。大きな開口部が露出していたことが、この一帯の



H シラヒゲソウ自生地
御船川下流の南側湿地に、昭和46年、市から天然記念物の指定を受けたシラヒゲソウの自生地がある。糸状に細く切れ込んだ花弁を白い髪に見立ててこの名がある。山地の湿地に生える多年草。葉は直徑2~4センチの円形で、基部は深いハート形。根生葉には長い柄があり、花茎に葉の基部は茎を抱く。9月中旬から10月初旬に開花する。

藤岡カントリークラブ

西中山

東海環状自動車道

待井

上

井

上

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田

田